

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	妊婦における周産期管理についての検討
研究責任者	名古屋大学医学部附属病院 産婦人科 准教授 小谷友美
研究事務局 (問い合わせ先)	名古屋大学医学部産婦人科 小谷友美 名古屋市昭和区鶴舞町 65 052-744-2261
研究の意義・目的	妊産婦さんの管理法は年々変化し進歩しています。この研究の意義と目的は、症例を蓄積しデータを収集検討することで、現行の標準的管理法の適応基準や管理法が妥当かについて検証を行うことです。
対象となる患者さん	当院および共同研究施設にて周産期管理を受けた妊産婦さん、またその児（妊娠中に当院で外来妊婦検診をうけたり、入院して治療をうけたり当院で出産された方）。また共同研究施設で管理された非妊娠女性。
研究方法	<p>カルテ記載より、母体年齢、血圧、身長、体重、尿蛋白、尿糖、妊娠・分娩歴、既往歴、家族歴、妊娠方法（不妊治療の有無など）、妊娠合併症の有無、分娩週数、陣痛誘発剤の使用、分娩様式、分娩時出血量・分娩時バイタル、輸血の有無、子宮摘出の有無などの母体の転帰、その他母体情報（感染症、EPDS など）、児の性別、身長・体重・アプガースコア、臍帯動脈血 pH 値、BE 値、胎盤重量。児の奇形の有無、児の治療・検査の有無とその結果、児の NICU 入院の有無とその理由、児死亡の有無とその理由など、児の発達（新版 K 式発達検査）や転帰や児の各種検査結果（採血、画像、病理検査など）。母児の採血結果（血算、生化、凝固能など）、クラミジア、B 群溶連鎖球菌などの感染症検査、膣培養検査、超音波検査、MRI 検査など各種画像検査結果、胎盤などの病理組織診断結果など。</p> <p>これらの情報を集めてデータベースを構築します。得られた情報を解析して、現行の標準管理法が妥当かについて検証を行います。</p> <p>妊産婦さんまたその児、非妊娠女性への新たな負担や侵襲はありません。匿名化処理を行い、誰のデータか分からないようにして、統計解析を行います。その結果は産婦人科に関連する学会や医学雑誌に公表されること</p>

	があります。
研究期間	実施承認日～2026年3月31日